

# VOICES from the ARCTIC

Vol.36 / 2024.4.11

ArCS II 国際政治課題  
北極域実践コミュニティ事務局



## ルカシェンコ、ロシアの北極 海港へのアクセスを希望

ルカシェンコは、ベラルーシ共和国をロシア連邦に統合することを望んでおり、ロシアの港を通じてベラルーシの輸出を促進するためのインフラ整備を求めている。優先事項の中には、最終的にサンクトペテルブルクの港からのベラルーシの輸出力の強化へと繋がるオクトーバー・鉄道の輸送能力の向上が含まれている。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/lukashenko-wants-access-to-russian-arctic-seaports/>  
(2024.2.2/Arctic Today)



アレクサンドル・ルカシェンコはベラルーシを徐々にロシア連邦の一部へと作り変えつつある。

(Photo: president.gov.by edited)

## 新協定により米国は新たに 北部の4つの軍事地域に アクセス可能に

ノルウェーと米国は、2021年に調印した補足的防衛協力協定（SDCA）の適用範囲を拡大するための新たな地域について合意した。ノルウェー北部では、アンドーヤ空軍基地、バルドゥフォス空軍基地、セテルモエン駐屯地、エヴェネス市の山岳複合施設がこれにあたる。議会で批准されれば、米国は合意された地域においてノルウェー（または他の国々）と共同の演習や訓練、部隊の展開、物資の保管を行うことができる。なお、米軍構成員は、当該地域内およびその周辺において、当該国の国民に対する権限を行使することができる。

記事参照：New Agreement Gives US Access to Four New Military Areas in the North - ArcticToday (2024.2.8/Arctic Today)

## ノルウェーはプーチンのプロパガンダと検閲マシンの一部を所有している

ノルウェー石油基金として知られるノルウェー政府年金グローバル基金が保有する株式の価値は、かつての5%以下にまで減少した。ただ、ノルウェー人はまだロシア企業52社の株式を保有しており、その中にはハイテクや通信の大手企業も含まれている。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/norway-owns-a-part-of-putins-propaganda-and-censorship-machine/> (2024.2.5/Arctic Today)

## ノルウェー首相 ロシアとの国境付近でのNATO活動の自主規制を解除する計画はない

ノルウェーとロシアの国境から数海里離れたヴァランゲル・フィヨルド上空を、火曜日、イギリス空軍機が往復飛行していた。しかし、ヨナス・ガール・ストーレ首相は、バレンツ・オブザーバー紙に対し、東フィンマルク地域上空におけるNATOの飛行に関する自主規制を変更する予定はないと語っている。1960年代初頭からコラ半島沿岸に原子力潜水艦の艦隊を配備していたソ連を刺激しないことを目的として、冷戦時代にこの規制が設定されてきた。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/norway-pm-no-plans-to-lift-self-imposed-restrictions-on-nato-activities-near-border-with-russia/> (2024.2.9/Arctic Today)

## ロシア、北極評議会への年次支払いを停止

ロシアは北極評議会への拠出金を、全加盟国が参加する「実質的な作業」が再開されるまで停止することになったとロイター通信が伝えた。外務省は「今のところ、ロシアは北極評議会からの脱退は考えていない」とRIAに語った。先週、ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、タス通信に「北極評議会が「ロシアにとって非友好的な機関へと下がり下がった場合、モスクワは同評議会にとどまるかどうかを検討する」と述べていた。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/russia-suspends-annual-payments-to-arctic-council-ria-agency-reports/> (2024.2.14/Arctic Today)



2019年5月7日、フィンランド・ロヴァニエミのラッピ・アリーナで開催された北極評議会首脳会議に出席した外相たち。

(Mandel Ngan/Pool via REUTERS/File Photo)

## 北極評議会のロシアとの協力についてノルウェー首相が語る「扉を閉め、鍵を捨ててはならない」

ノルウェーのヨナス・ガール・ストーレ首相は、トロンソで開催されたアークティック・フロンティアの講演の中で、「私たちはドアを閉め、鍵を捨ててしまうべきではありません。いつかまた開かれ、北極域の食卓を囲む日が来るかもしれない」と語った。北極評議会事務局はノルウェーのトロンソにあり、現在、ノルウェーは北極評議会の議長国を務めている。

記事参照：<https://www.arctictoday.com/we-should-not-close-those-doors-and-throw-the-keys-away-says-norway-pm-on-arctic-council-cooperation-with-russia/> (2024.2.15/Arctic Today)



モスクワは水曜日、北極評議会への拠出金の支払いを停止したと発表した。

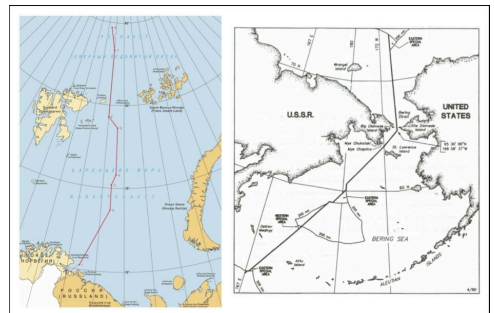
(Photo: Thomas Nilsen)

## ラブロフ、ノルウェーと米国との海洋境界協定を堅持

バレンツ海におけるノルウェー、ベーリング海におけるアメリカとの海洋境界線に関する協定の終了を求める声がロシア下院で上がっている。ロシア外務省のセルゲイ・ラブロフ外務大臣は、ロシアにとっての協定の利点を指摘し、「全体像を見なければならぬ」と答えた。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/lavrov-stands-firm-on-maritime-border-agreements-with-norway-and-the-us/> (2024.2.19/Arctic Today)



左側：バレンツ海及び北極海における海域画定及び協力に関するノルウェー・ロシア条約の画定線。この条約は2010年に調印され、2011年に発効した。右側：1990年に調印されたベーリング海の海洋境界に関する米ソ（ロシア）間の協定における境界線。ロシア下院議会ではまだ批准されていないが、実際には適用されている。

(Maps: the Norwegian MFA; the US MFA)

## スペインとベルギーがロシアの北極域ガスを記録的な勢いで購入、当局も輸入を止める方法は不明

欧州諸国はロシアのガス生産量の半分以上を購入し続けている。2023年を通して、スペインはフランスとベルギーを凌ぐ主要な輸入国に浮上したが、輸入量を減らすための欧州の協調的な努力はなかった。ノルウェーもEU域外を含むLNGポートフォリオの拡大を続けている。欧州の政府関係者は、ロシア産液化天然ガス（LNG）のEU域内への流入を制限する措置を支持する意向を表明しているが、現実には逆の方向に向かっている。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/spain-and-belgium-buy-russian-arctic-gas-at-record-rate-officials-unsure-how-to-stop-imports/>  
(2024.2.22/Arctic Today)

## 北極圏に雨が降る：エール環境360



かつて北極圏で雨が降ることは稀だったが、地球温暖化がそれを変えつつある。エド・ストルージックが『Yale Environment 360』で書いているように、その結果は壊滅的なものになるかもしれない。雨雪現象が増加し、野生生物とそれに依存する先住民族にさまざまな問題を引き起こしている。氷の喪失、洪水、地滑り、雪崩、水質の大きな変化などである。氷河学者のジョエル・ハーパーによると、雨による雪崩が起こるたびに、固い層の構造が変化し、次の雪解けの影響を受けやすくなるという。このことは、このような現象が少し増えるだけで、重大な影響を及ぼすことを示唆している、と彼は言う。

記事参照：<https://www.arctictoday.com/rain-comes-to-the-arctic-with-a-cascade-of-troubling-changes-yale-environment-360/>  
(2024.2.23/Arctic Today)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

### 【編集後記】

Vol.36は、2024年2月のニュースを掲載しています。

今月は政治関連のニュースが多かったので、Vol.36とVol.37の2回に分けて編集しています。本号では、ロシアの北極評議会への揺さぶりの続報があったほか、ノルウェーと米国の間の補足的防衛協力協定の更新にあるように北ヨーロッパの安全保障環境の変容が少しずつではありますが徐々に進行していることが注目されます。（大西）

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局  
監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）  
E-mail：[tdcop@arc.hokudai.ac.jp](mailto:tdcop@arc.hokudai.ac.jp)  
WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

